

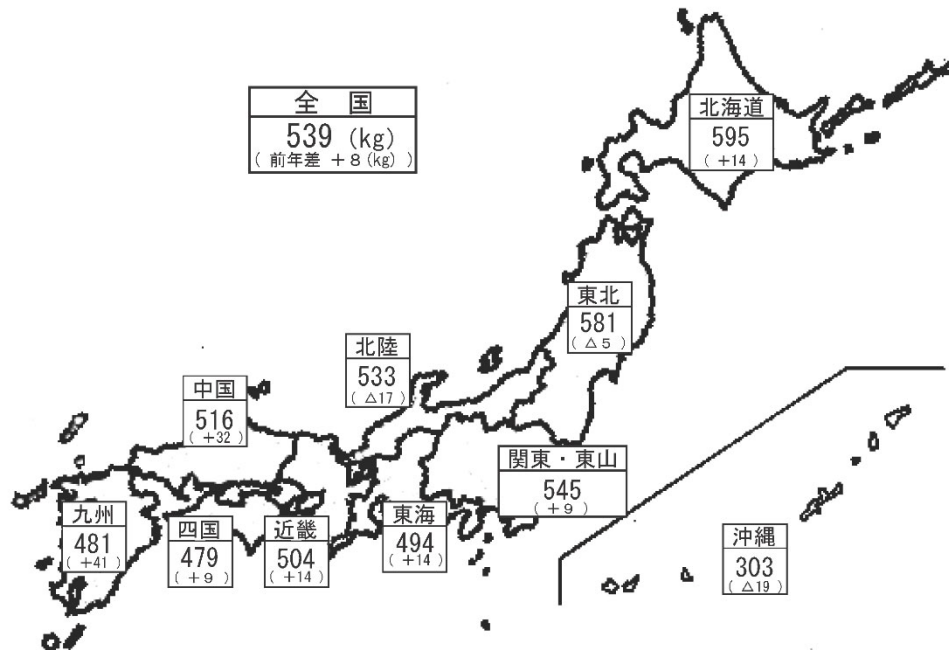
作物統計調査 令和3年産水稻の作付面積及び予想収穫量（9月25日現在）

— 全国の10a当たり予想収量は539kgの見込み —

【調査結果の概要】

- 1 令和3年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は156万4,000haで、前年産に比べ1万1,000haの減少が見込まれる。うち主食用作付見込面積は130万3,000haで、前年産に比べ6万3,000haの減少が見込まれる。
- 2 9月25日現在における水稻の作柄は、6月下旬から7月上旬の日照不足、8月中旬からの低温、日照不足等の影響がみられる地域がある一方で、北海道及び東北においては、全もみ数が平年以上に確保され、登熟も順調に推移していると見込まれることから、全国の10a当たり予想収量は539kgとなった。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は100が見込まれる。
- 3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は700万2,000tで、前年産に比べ22万4,000tの減少が見込まれる。

図1 全国農業地域別10a当たり予想収量（9月25日現在）



- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日現在）を除いた面積（見込み）である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 本調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行ったが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y3】

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

水稻の年次別推移（全国）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
平成13年産	1,711,000	1,700,000	532	9,048,000	...	...	103
14	1,693,000	1,683,000	527	8,876,000	...	...	101
15	1,670,000	1,660,000	469	7,779,000	...	...	90
16	1,704,000	1,697,000	514	8,721,000	...	...	98
17	1,709,000	1,702,000	532	9,062,000	...	...	101
18	1,692,000	1,684,000	507	8,546,000	...	...	96
19	1,678,000	1,669,000	522	8,705,000	...	...	99
20	1,637,000	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	102
21	1,637,000	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	98
22	1,657,000	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	98
23	1,632,000	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	101
24	1,641,000	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	102
25	1,647,000	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	102
26	1,639,000	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000	101
27	1,623,000	1,505,000	531	7,986,000	1,406,000	7,442,000	100
28	1,611,000	1,478,000	544	8,042,000	1,381,000	7,496,000	103
29	1,600,000	1,465,000	534	7,822,000	1,370,000	7,306,000	100
30	1,592,000	1,470,000	529	7,780,000	1,386,000	7,327,000	98
令和元	1,584,000	1,469,000	528	7,762,000	1,379,000	7,261,000	99
2	1,575,000	1,462,000	531	7,763,000	1,366,000	7,226,000	99
3 (見込み)	1,564,000	..	539	..	1,303,000	7,002,000	100

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

4 作況指数は、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

5 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

6 「..」は、未発表であることを示している。

【調査結果】

1 令和3年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は156万4,000haで、前年産に比べ1万1,000haの減少が見込まれる。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は130万3,000haで、前年産に比べ6万3,000haの減少が見込まれる。

2 9月25日現在における水稻の地域別の10a当たり予想収量は、北海道及び東北においては、全もみ数が平年以上に確保され、登熟も順調に推移していると見込まれることから、北海道は595kg（前年産に比べ14kg増加）、東北は581kg（同5kg減少）が見込まれる。

一方、6月下旬から7月上旬の日照不足、8月中旬からの低温、日照不足等の影響により、全もみ数と登熟が平年を下回る地域があったことから、北陸は533kg（前年産に比べ17kg減少）、関東・東山は545kg（同9kg増加）、東海は494kg（同14kg増加）、近畿は504kg（同14kg増加）、中国は516kg（同32kg増加）、四国は479kg（同9kg増加）、九州は481kg（同41kg増加）が見込まれる。

この結果、全国の10a当たり予想収量は539kg（前年産に比べ8kg増加）が見込まれる。

3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は700万2,000t（前年産に比べ22万4,000t減少）が見込まれる。

表 令和3年産水稻の作付面積及び9月25日現在の10a当たり予想収量
（全国農業地域別）

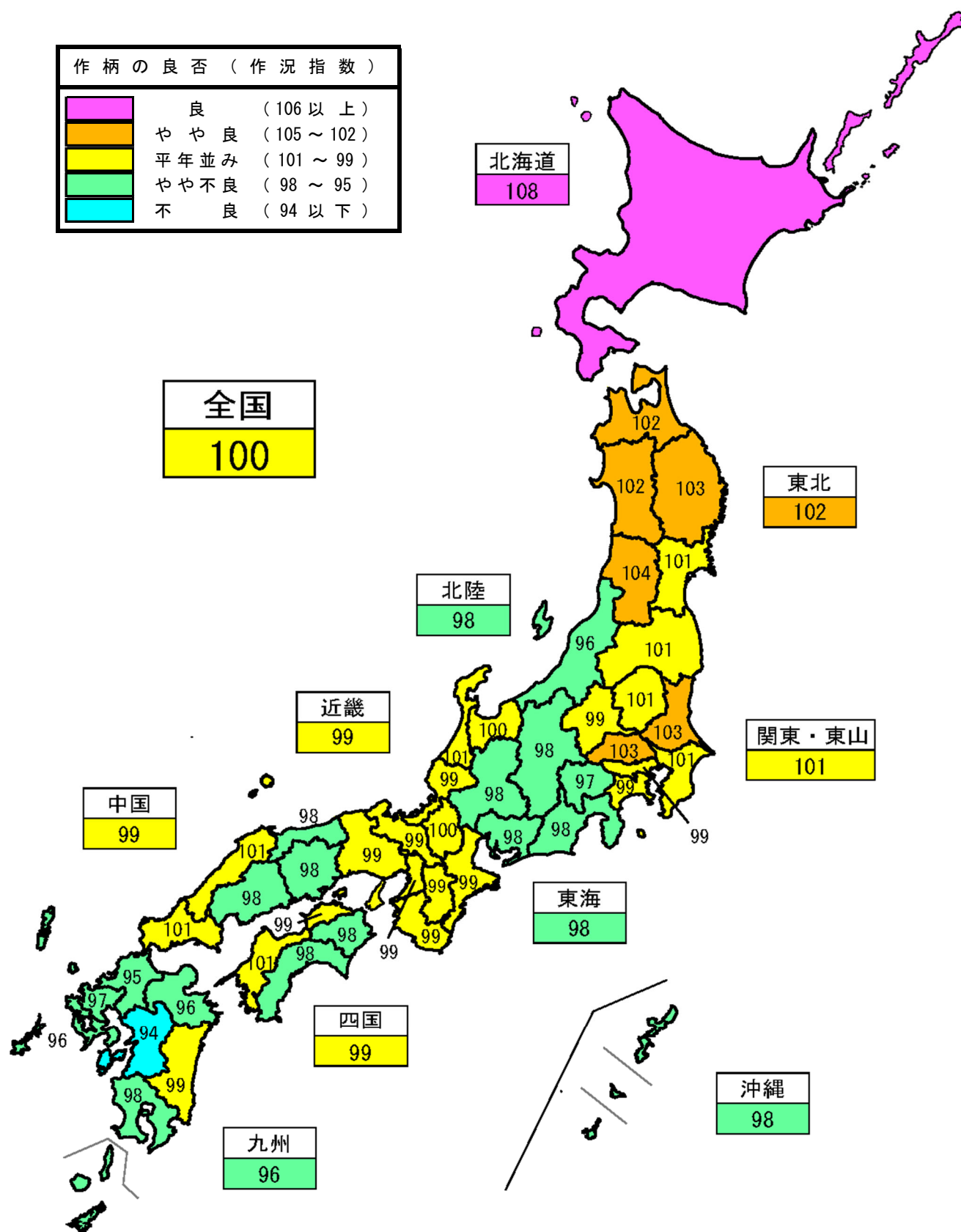
全国農業地域	作付面積（青刈り面積を含む。）			10 a 当たり予想収量		主食用作付 見込面積 ②	予想収穫量 （主食用） ③＝①×②
	実 数	前年産との比較		実 数 ①	前年産との比較		
		対 差	対 比				
	ha	ha	%	kg	kg	ha	t
全 国	1,564,000	△ 11,000	99	539	8	1,303,000	7,002,000
北 海 道	103,300	△ 1,400	99	595	14	88,400	526,000
東 北	409,900	△ 1,700	100	581	△ 5	322,400	1,870,000
北 陸	211,500	△ 800	100	533	△ 17	177,900	947,700
関 東・東 山	294,400	△ 1,700	99	545	9	240,100	1,310,000
東 海	98,800	△ 800	99	494	14	87,600	432,900
近 畿	103,000	△ 1,100	99	504	14	95,700	482,200
中 国	105,600	△ 1,300	99	516	32	95,900	494,900
四 国	49,000	△ 900	98	479	9	45,400	218,400
九 州	187,500	△ 2,200	99	481	41	149,300	717,900
沖 縄	671	18	103	303	△ 19	623	1,890

注：1 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 主食用作付見込面積及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

3 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量（主食用）の算出は、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量の加重平均を用いた。

図2 全国農業地域・都道府県別作況指数（9月25日現在）



- 注：1 作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふり目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- 2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通期栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出は、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量の加重平均を用いた。

【統計表】

統計表一覧

ページ

- 1 令和3年産水稻の作付面積、10a 当たり予想収量及び
予想収穫量（9月25日現在）・・・・・・・・・・ 6
- 2 令和3年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月25日現在）・・・・・・・・・・ 8

利用上の注意

- 1 統計数値については、次表の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (1 万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3 桁	2 桁		1 桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は次のとおりである。
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
「△」：負数又は減少したもの
- 3 この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和3年産水稻の作付面積及び予想収穫量（9月25日現在）」（農林水産省）による旨を記載してください。

1 令和3年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び予想収穫量（9月25日現在）

全 国 ・ 都道府県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10 a 当たり 予想収量 ①	農家等が使用している ふるい目幅で選別			
	実 数	前年産との比較			最も多い 使用割合 の 目 幅 ②	10 a 当たり 予想収量 ③	10 a 当たり 平年収量 ④	作 況 指 数 ⑤＝③／④
		対 差	対 比					
	ha	ha	%	kg	mm	kg	kg	
全 国 (1)	1,564,000	△ 11,000	99	539	...	514	512	100
北 海 道 (2)	103,300	△ 1,400	99	595	1.90	568	526	108
青 森 (3)	50,100	△ 200	100	617	1.90	588	574	102
岩 手 (4)	55,100	△ 600	99	555	1.90	528	514	103
宮 城 (5)	74,900	△ 400	99	545	1.90	518	514	101
秋 田 (6)	89,800	△ 500	99	591	1.90	556	543	102
山 形 (7)	68,500	△ 300	100	628	1.90	592	568	104
福 島 (8)	71,600	400	101	555	1.85	536	533	101
茨 城 (9)	75,800	△ 400	99	544	1.85	522	505	103
栃 木 (10)	69,100	0	100	549	1.85	522	516	101
群 馬 (11)	16,700	△ 300	98	493	1.80	477	482	99
埼 玉 (12)	33,000	△ 200	99	505	1.80	490	477	103
千 葉 (13)	59,800	△ 400	99	550	1.80	540	534	101
東 京 (14)	120	△ 4	97	411	1.80	400	403	99
神 奈 川 (15)	2,930	△ 70	98	489	1.80	472	477	99
新 潟 (16)	121,400	△ 400	100	531	1.85	509	529	96
富 山 (17)	38,700	△ 200	99	554	1.90	521	520	100
石 川 (18)	25,200	△ 200	99	527	1.85	513	509	101
福 井 (19)	26,100	△ 100	100	515	1.90	478	485	99
山 梨 (20)	4,880	△ 30	99	533	1.80	518	532	97
長 野 (21)	32,000	△ 200	99	605	1.85	585	598	98
岐 阜 (22)	24,800	△ 200	99	477	1.80	467	475	98
静 岡 (23)	16,700	△ 100	99	512	1.80	503	511	98
愛 知 (24)	28,700	△ 200	99	497	1.85	481	491	98
三 重 (25)	28,600	△ 300	99	495	1.85	473	479	99
滋 賀 (26)	32,100	△ 300	99	520	1.90	485	483	100
京 都 (27)	14,400	△ 100	99	503	1.85	486	493	99
大 阪 (28)	4,630	△ 80	98	488	1.80	472	479	99
兵 庫 (29)	37,200	△ 400	99	493	1.85	470	477	99
奈 良 (30)	8,520	△ 20	100	509	1.80	496	500	99
和 歌 山 (31)	6,100	△ 150	98	494	1.80	483	486	99
鳥 取 (32)	13,600	△ 100	99	504	1.85	485	495	98
島 根 (33)	18,200	△ 200	99	523	1.90	488	483	101
岡 山 (34)	30,900	△ 300	99	520	1.85	493	501	98
広 島 (35)	23,200	△ 200	99	518	1.85	499	509	98
山 口 (36)	19,700	△ 400	98	509	1.85	484	480	101
徳 島 (37)	11,400	△ 300	97	465	1.80	452	462	98
早期栽培 (38)	4,480	△ 200	96	455	1.80	443	453	98
普通栽培 (39)	6,940	△ 110	98	472	1.80	459	467	98
香 川 (40)	11,600	△ 300	97	495	1.80	474	478	99
愛 媛 (41)	13,700	△ 100	99	503	1.85	475	469	101
高 知 (42)	12,300	△ 100	99	452	1.80	439	446	98
早期栽培 (43)	7,090	△ 90	99	475	1.80	463	471	98
普通栽培 (44)	5,200	△ 50	99	420	1.80	407	414	98
福 岡 (45)	38,500	200	101	473	1.85	435	457	95
佐 賀 (46)	25,700	△ 300	99	501	1.85	470	487	97
長 崎 (47)	12,200	△ 200	98	462	1.80	444	463	96
熊 本 (48)	41,700	△ 600	99	482	1.85	450	479	94
大 分 (49)	23,600	△ 500	98	479	1.80	457	476	96
宮 崎 (50)	23,100	0	100	489	1.80	477	482	99
早期栽培 (51)	8,100	△ 440	95	481	1.80	476	470	101
普通栽培 (52)	15,000	400	103	494	1.80	477	490	97
鹿 児 島 (53)	22,700	△ 800	97	475	1.80	460	470	98
早期栽培 (54)	6,580	△ 10	100	461	1.80	451	446	101
普通栽培 (55)	16,100	△ 800	95	479	1.80	463	477	97
沖 縄 (56)	671	18	103	303	1.80	293	300	98
第一期稲 (57)	481	2	100	355	1.80	349	354	99
第二期稲 (58)	190	16	109	...	1.80	...	149	...

注：1 ①10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 ③10a 当たり予想収量、④10a 当たり平年収量及び⑤作況指数については、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

3 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから「…」で示しており、沖縄県計の10a 当たり予想収量及び予想収穫量（主食用）の算出は、第一期稲の10a 当たり収量と第二期稲の10a 当たり平年収量の加重平均を用いた。

主食用作付見込面積 ⑥	予想収穫量（主食用） ⑦＝①×⑥	作柄概況（平年比較）				
		穂数の多少	1 穂 当 た り の も み 数 の 少	全 も み 数 の 多 少	登熟の良否	
ha	t					
1,303,000	7,002,000	…	…	…	…	(1)
88,400	526,000	やや多い	平年並み	やや多い	やや良	(2)
34,200	211,000	やや多い	やや少ない	平年並み	やや良	(3)
46,200	256,400	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	(4)
61,000	332,500	やや少ない	やや多い	やや多い	平年並み	(5)
71,400	422,000	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(6)
54,900	344,800	やや多い	平年並み	やや多い	やや良	(7)
54,700	303,600	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(8)
61,400	334,000	平年並み	やや多い	やや多い	やや良	(9)
50,600	277,800	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(10)
13,000	64,100	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(11)
28,800	145,400	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(12)
48,100	264,600	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み	(13)
120	493	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(14)
2,920	14,300	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(15)
101,800	540,600	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(16)
32,200	178,400	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(17)
21,400	112,800	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良	(18)
22,500	115,900	平年並み	やや多い	平年並み	やや不良	(19)
4,760	25,400	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(20)
30,400	183,900	やや少ない	多い	やや多い	やや不良	(21)
20,700	98,700	やや少ない	やや多い	やや少ない	平年並み	(22)
15,200	77,800	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(23)
25,800	128,200	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(24)
25,900	128,200	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(25)
28,900	150,300	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや良	(26)
13,600	68,400	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(27)
4,620	22,500	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(28)
34,100	168,100	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(29)
8,400	42,800	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(30)
6,100	30,100	少ない	多い	平年並み	平年並み	(31)
12,400	62,500	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(32)
16,500	86,300	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(33)
27,900	145,100	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(34)
21,700	112,400	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良	(35)
17,400	88,600	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(36)
9,980	46,400	…	…	…	…	(37)
…	…	少ない	多い	平年並み	やや不良	(38)
…	…	平年並み	多い	やや多い	不良	(39)
11,300	55,900	やや少ない	やや多い	やや多い	やや不良	(40)
13,200	66,400	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(41)
11,000	49,700	…	…	…	…	(42)
…	…	やや少ない	多い	やや多い	やや不良	(43)
…	…	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良	(44)
34,100	161,300	やや少ない	やや少ない	少ない	平年並み	(45)
22,800	114,200	少ない	平年並み	少ない	やや良	(46)
10,800	49,900	少ない	やや少ない	少ない	やや良	(47)
31,200	150,400	やや少ない	やや少ない	少ない	平年並み	(48)
19,400	92,900	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み	(49)
13,900	68,000	…	…	…	…	(50)
…	…	少ない	多い	平年並み	やや良	(51)
…	…	少ない	平年並み	やや少ない	やや良	(52)
17,100	81,200	…	…	…	…	(53)
…	…	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良	(54)
…	…	平年並み	やや少ない	少ない	やや良	(55)
623	1,890	…	…	…	…	(56)
…	…	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(57)
…	…	…	…	…	…	(58)

4 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日現在）を除いた面積（見込み）である。

5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県における早期・普通期別等の主食用作付見込面積は、作期別に備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

6 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県における県平均の「穂数の多少」以降の指標は、調査を早期・普通期別等に行っており県平均を取りまとめていないため、「…」で示している。

2 令和3年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月25日現在）

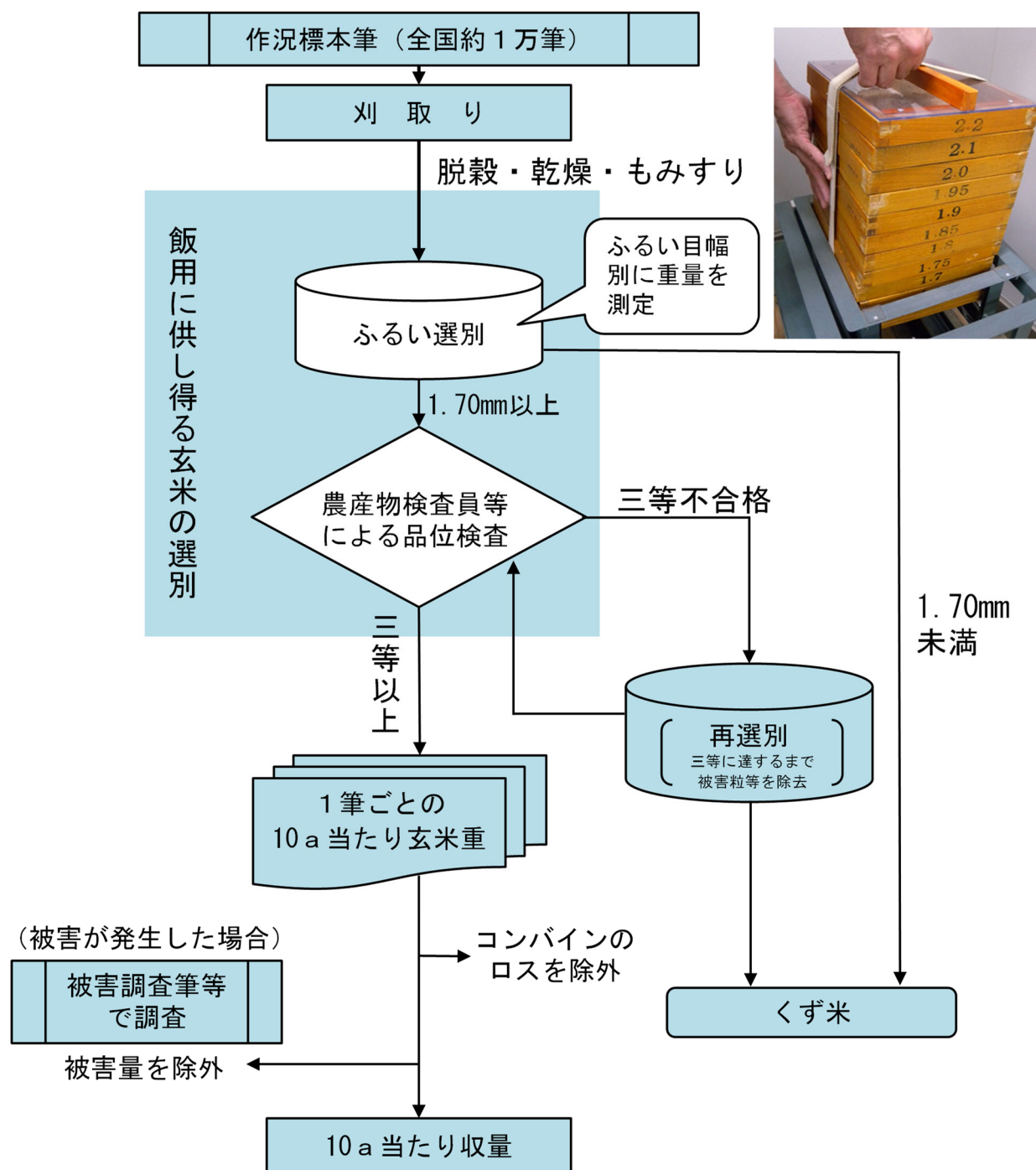
都 道 府 県	出 穂 期								刈取済面積 割 合
	始 期	最盛期		終 期	最盛期の比較				
					対平年差	対前年差			
	月	日	月	日	月	日			%
全 国	...		...		...		...	...	53
北海道	7.	20	7.	25	7.	31	7 日 早	6 日 早	76
青 森	7.	27	7.	30	8.	4	6 日 早	6 日 早	34
岩 手	7.	28	7.	31	8.	5	5 日 早	6 日 早	28
宮 城	7.	26	7.	30	8.	7	4 日 早	7 日 早	28
秋 田	7.	25	7.	31	8.	5	4 日 早	3 日 早	46
山 形	7.	29	8.	2	8.	12	4 日 早	4 日 早	37
福 島	8.	1	8.	7	8.	15	2 日 早	2 日 早	4
茨 城	7.	17	7.	28	8.	11	2 日 早	5 日 早	94
栃 木	7.	24	7.	30	8.	17	1 日 早	5 日 早	60
群 馬	8.	4	8.	21	9.	2	1 日 遅	並 み	7
埼 玉	7.	23	8.	9	8.	31	1 日 早	3 日 早	45
千 葉	7.	10	7.	20	8.	3	3 日 早	1 日 早	98
東 京	8.	3	8.	12	8.	23	2 日 早	2 日 早	26
神 奈 川	7.	30	8.	10	8.	20	2 日 早	1 日 早	40
新 潟	7.	24	8.	4	8.	13	1 日 早	2 日 早	80
富 山	7.	13	8.	2	8.	11	並 み	3 日 早	85
石 川	7.	18	7.	28	8.	6	1 日 早	2 日 早	93
福 井	7.	14	8.	1	8.	13	並 み	3 日 早	93
山 梨	8.	3	8.	8	8.	30	1 日 早	3 日 早	30
長 野	7.	29	8.	6	8.	15	1 日 早	3 日 早	34
岐 阜	7.	21	8.	21	9.	4	1 日 遅	並 み	40
静 岡	7.	20	8.	6	8.	30	1 日 早	1 日 早	62
愛 知	7.	23	8.	19	9.	7	1 日 遅	1 日 早	37
三 重	7.	14	7.	22	8.	10	1 日 早	並 み	96
滋 賀	7.	23	7.	30	8.	16	1 日 早	3 日 早	88
京 都	7.	22	7.	31	8.	17	2 日 早	2 日 早	54
大 阪	8.	1	8.	24	8.	31	1 日 遅	2 日 遅	20
兵 庫	7.	26	8.	9	8.	31	2 日 早	4 日 早	49
奈 良	7.	31	8.	24	8.	29	並 み	1 日 遅	24
和 歌 山	7.	17	8.	5	8.	24	2 日 早	1 日 早	75
鳥 取	7.	28	8.	8	8.	25	2 日 遅	1 日 早	46
島 根	7.	19	7.	30	8.	18	並 み	4 日 早	56
岡 山	7.	30	8.	23	9.	8	3 日 遅	2 日 遅	33
広 島	7.	22	8.	6	8.	26	1 日 早	3 日 早	49
山 口	7.	27	8.	11	8.	30	2 日 遅	1 日 早	59
徳 島 早期栽培	7.	6	7.	16	7.	25	2 日 遅	3 日 遅	100
普通栽培	7.	19	7.	31	8.	28	並 み	並 み	83
香 川	7.	20	8.	24	9.	3	3 日 遅	4 日 遅	40
愛 媛	7.	18	8.	15	9.	4	2 日 遅	2 日 遅	55
高 知 早期栽培	6.	22	7.	1	7.	18	1 日 早	1 日 早	100
普通栽培	8.	12	8.	19	9.	1	1 日 遅	2 日 遅	25
福 岡	8.	1	8.	20	9.	4	2 日 早	3 日 早	33
佐 賀	7.	21	8.	27	9.	11	1 日 早	3 日 早	26
長 崎	7.	15	8.	24	9.	2	2 日 早	2 日 早	19
熊 本	7.	15	8.	22	9.	6	並 み	並 み	10
大 分	7.	29	8.	27	9.	5	2 日 遅	3 日 遅	12
宮 崎 早期栽培	6.	20	6.	25	7.	2	1 日 遅	1 日 遅	100
普通栽培	8.	17	8.	26	9.	4	2 日 遅	3 日 遅	3
鹿 児 島 早期栽培	6.	17	6.	24	7.	15	1 日 早	2 日 早	100
普通栽培	8.	20	8.	28	9.	7	3 日 遅	4 日 遅	0
沖 縄 第一期稲	4.	25	5.	20	6.	4	2 日 早	1 日 早	100

注：出穂期の始期、最盛期、終期とは、出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。

【参考 1】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 2】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。

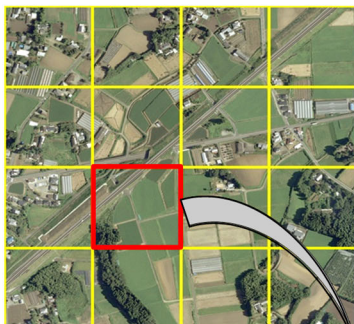


【参考2】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）^{ふで}は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約1万筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



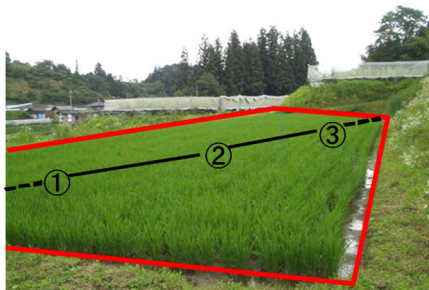
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約1万筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び予想収穫量調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況・予想収穫量等を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

本調査は、全国の各都道府県を対象に実施している。

(2) 調査対象の選定

ア 作付面積調査

水稻の栽培に供された全ての耕地

イ 予想収穫量調査

水稻が栽培されている耕地

(3) 調査対象数

ア 作付面積調査

標本単位区：39,411単位区

イ 予想収穫量調査

作況標本筆：9,902筆、作況基準筆：279筆

3 調査事項

水稻の作付面積、10a 当たり予想収量、予想収穫量（9月25日現在）、穂数・もみ数等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況等

4 調査期日

(1) 作付面積調査：令和3年7月15日現在

(2) 予想収穫量調査：令和3年9月25日現在

5 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

ア 母集団の編成

空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方（北海道にあっては、400m四方）の格子状の区画のうち、耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区（区画内に存する耕地について筆ポリゴン（衛星画像等を基に面積調査用の地理情報システムにより筆（けい畔等で区切られた現況一枚のほ場）ごとの形状に沿って作成した面をいう。）を作成するものをいう。）の集まりを母集団（全国約290万単位区）としている。

なお、筆ポリゴンには、地目（田又は畑）等の情報が登録されている。

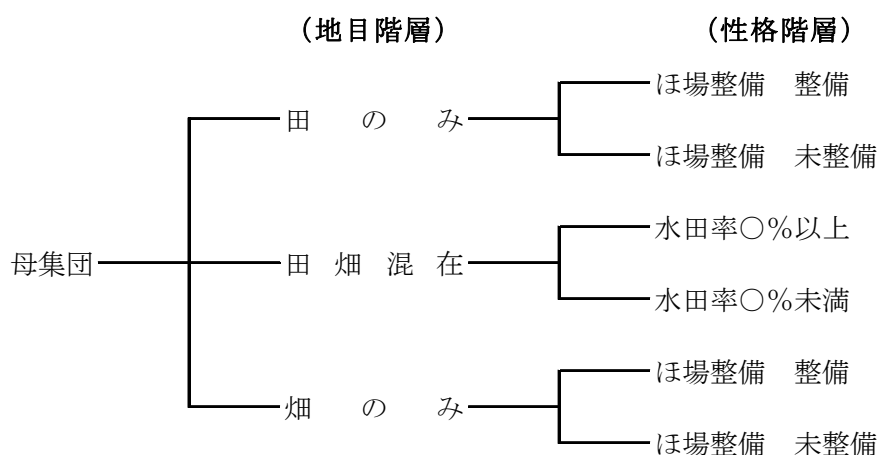
母集団は、ほ場整備、宅地への転用等により生じた現況の変化を反映するため、単位区の情報を補正することにより整備している。

イ 階層分け

調査精度の向上を図るため、母集団を各単位区内の耕地の地目に基づいて

地目階層（「田のみ階層」、「田畑混在階層」及び「畑のみ階層」）に分類し、それぞれの地目階層について、ほ場整備の状況、水田率等の指標に基づいて設定した性格の類似した階層（性格階層）に分類している。

階層分け模式図（例）



ウ 標本配分及び抽出

都道府県別の田畑別耕地面積及び水稻作付面積が的確に把握できるように階層ごとに調査対象数を配分し、系統抽出法により抽出する。

エ 実査（対地標本実測調査）

抽出した標本単位区内の水稻が作付けされている全ての筆について、1筆ごとに現況地目、耕地の境界及び作付けの状況を確認する。

オ 推定

水稻作付面積の推定においては、都道府県別に面積調査用の地理情報システムを使用して求積した「標本単位区の田台帳面積の合計」に対する「実査により得られた標本単位区の現況の水稻作付見積り面積の合計」の比率を「母集団（全単位区）の田の台帳面積の合計」に乘じ、これに台帳補正率（田台帳面積に対する実面積の比率）を乗じることにより、全体の面積を推定し、職員又は統計調査員による巡回・見積り及び職員による情報収集により補完している。

$$\text{推定面積} = \frac{\text{標本単位区の現況水稻作付見積り面積合計}}{\text{標本単位区の田台帳面積合計}} \times \text{全単位区の田台帳面積合計} \times \text{台帳補正率}$$

なお、全国計及び全国農業地域別の値は、都道府県別の値を合計して算出した。

カ その他

遠隔地、離島、市街地等の対地標本実測調査が非効率な地域については、職員による巡回・見積り、情報収集によって把握している。

(2) 予想収穫量調査

ア 母集団

(1)のイにより、「田のみ階層」及び「田畑混在階層」の地目階層に分類される単位区を母集団としている。

イ 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、水稻の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域を「作柄表示地帯」

として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っている。

ウ 標本配分及び抽出

都道府県別の調査対象数を階層別に水稻の作付面積に10 a 当たり収量の標準偏差を乗じた結果に比例して配分する。

階層別に配分された調査対象数を単位区の水稲作付面積(田台帳面積)に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出する。抽出された標本単位区内で、水稻が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆(実測調査を行う筆)とする。

エ 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行う。

オ 10 a 当たり玄米重の算定

(ア) 予想収穫量調査(調査期日において収穫期を迎えていないもの)

刈取りが行われる前に調査を実施するため、穂数、1穂当たりもみ数及び千もみ当たり収量のうち実測可能な項目については実測値、実測が不可能な項目については過去の気象データ、実測データ等を基に作成した予測式により算定した推定値を用いることとし、これらの数値の積により10 a 当たり玄米重を予測する。

(イ) 収穫量調査(調査期日において収穫期を迎えているもの)

各作況標本筆について、一定株数(1 m²分×3か所の株数)の稲を刈り取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米(農産物規格規程(平成13年2月28日農林水産省告示第244号)に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上であるもの)となるように選別し、10 a 当たり玄米重を決定する。

カ 10 a 当たり収量の推定

各作況標本筆の10 a 当たり玄米重の平均を基に、都道府県別の10 a 当たり玄米重平均値を推定し、これにコンバインのロス率(コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス)や被害データ等を加味して検討を行い、都道府県別の10 a 当たり収量を推定する。

さらに、作況基準筆(10 a 当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準とするものとして有意に選定した筆をいう。)の実測結果及び特異な被害が発生した際に設置する被害調査筆の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完する。

キ 収穫量及び被害量

作況標本筆の刈取り調査結果から推定した10 a 当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求める。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握する。また、特異な被害が発生した場合は、被害調査筆を設置して調査を実施し把握する。

6 実績精度

作付面積調査の対地標本実測調査における水稻作付面積に係る調査結果（全国）の実績精度を標準誤差率（標本誤差の推定値÷推定値×100）により示すと、次のとおりである。

区 分	標準誤差率（％）
水稻作付面積	0.34

7 全国農業地域の表章区分

全国農業地域名	所 属 都 道 府 県 名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北陸	新潟、富山、石川、福井
関東・東山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
東海	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄

8 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。
- (2) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) (2)から(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

令和3年産の作況指数の算出に用いるふるい目幅							
都道府県	農家等 使用目幅	都道府県	農家等 使用目幅	都道府県	農家等 使用目幅	都道府県	農家等 使用目幅
北海道	1.90mm	東 京	1.80mm	滋 賀	1.90mm	香 川	1.80mm
青 森	1.90mm	神奈川	1.80mm	京 都	1.85mm	愛 媛	1.85mm
岩 手	1.90mm	新 潟	1.85mm	大 阪	1.80mm	高 知	1.80mm
宮 城	1.90mm	富 山	1.90mm	兵 庫	1.85mm	福 岡	1.85mm
秋 田	1.90mm	石 川	1.85mm	奈 良	1.80mm	佐 賀	1.85mm
山 形	1.90mm	福 井	1.90mm	和歌山	1.80mm	長 崎	1.80mm
福 島	1.85mm	山 梨	1.80mm	鳥 取	1.85mm	熊 本	1.85mm
茨 城	1.85mm	長 野	1.85mm	島 根	1.90mm	大 分	1.80mm
栃 木	1.85mm	岐 阜	1.80mm	岡 山	1.85mm	宮 崎	1.80mm
群 馬	1.80mm	静 岡	1.80mm	広 島	1.85mm	鹿児島	1.80mm
埼 玉	1.80mm	愛 知	1.85mm	山 口	1.85mm	沖 縄	1.80mm
千 葉	1.80mm	三 重	1.85mm	徳 島	1.80mm		

- (8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

9 その他

- (1) この資料のうち、作付面積は、概数値である。
 確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和4年2月予定）するとともに、その後刊行する「令和3年耕地及び作付面積統計」に掲載する。
 なお、確定した詳細な数値をホームページに掲載した後の正誤情報は、ホームページでお知らせする。
- (2) 本調査（9月25日現在）は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行ったが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y3 】

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

・作付面積に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 面積統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3681

（直通）03-6744-2045

FAX： 03-5511-8771

・予想収穫量に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3682

（直通）03-3502-5687

FAX： 03-5511-8771

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 統計広報推進班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3589

（直通）03-6744-2037

FAX： 03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>